

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 11月 第117号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

老いの幸せは何処に

10月3日の新聞に徳島県で、約5年前に脳梗塞で下半身不随となった妻(57)を、介護する夫(57)が殺したとして殺人罪で緊急逮捕された事件が載っています。知人によれば、妻は『私を殺して』『私は死にたい』と何度も訴え、夫は『そんなことを言うなよ』と応えていたが、最近とても痩せて疲れていた、という。

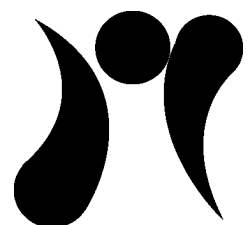
昨年10月には神奈川県で、5年前にALSの長男(40)の人口呼吸器の電源を切り、殺人罪で懲役3年・執行猶予5年の判決を受けた母親(65)を、夫(66)が刺殺して緊急逮捕された事件が載りました。

どちらの場合にも、医療と介護の専門職が数多く関与していたと思われませんが、治らぬ病の人が絶望して死を望むとき、ご本人に対しても、殺人犯となるご家族に対しても、何ら力になり得なかった結果であり、高齢者介護に携わる身として、非常に虚しい想いを抱きます。

下半身不随の妻の場合にも、ALSの長男の場合にも、ご本人が自らの病と障害を受容するとき、そして、その先に在る死を受容するとき、ご本人は意欲を失わずに生きることが可能だったはずです。また、ご両親や夫が、子や妻に対して受容を促す働き掛けを積極的に行い得たなら、状況が変わった可能性も考えられます。

リハビリテーションは、障害の受容から始まる、と言われます。失った機能を諦め、その機能の無いことを受け容れるとき、意欲を持って生きることが可能になり、生きる為の新たな手段を獲得していくのです。そして死を受容するとき、死の瞬間まで意欲を失わず、幸せな想いを抱きながら人生を締め括る事が可能になるのです。医療や介護に係る専門職には、受容を促す働き掛けが最も重要な出発点になります。

姥捨て伝説を描いた深沢七郎氏の『楢山節孝』は、昨夜まで姥が使っていた綿入れを孫が背中に掛け、姥が造った濁酒を飲み、子を孕む孫の嫁が姥の細帯を腹に巻いて暮らしている場面で終わっています。《次ページに続く》



姥は、子や孫の暮らしの中で生きています。子も孫も、山で最期を迎えた姥を思い遣り、その命を感じ取って暮らしています。そして姥は、自分を山に捨てた息子を怨んではおらず、むしろ子や孫への想いを抱いて死を受容し、幸せを感じながら死を迎えたように思います。

死を受容することについて、姥は誰かに教えられた訳ではなく、同じ集落の先人たちの姥捨てを見て、捨てられた姥の命を感じ取る心を学び、自らの死を受容する心を育んで来たのだと思います。

嘗ての貧しい日本の農村の、死と向き合う日々の暮らしの中で、連綿と受継いできた社会の縁が、今の豊かな日本社会に繋がり、その基礎を築いて来ました。しかし今、その社会の縁が繋がらず、無縁社会に陥り、急速に人口減少化が進んでいます。

脳梗塞で下半身不随となった妻とその夫が、57年間の暮らしの中で、障害と死を受容する心を育んでいたなら、そして、ALSの息子さんとそのご両親にも、死者の命を感じ取り、死を受容する心が芽生える生活環境であったなら、状況は大きく変わっていた、と思います。

超高齢社会の今、高齢者がその永い人生を締め括る暮らしの場には、多くの家族や医療・介護の関係者が居合わせます。その暮らしを支える為に、介護保険制度を創り、多くの高齢者とその家族が制度を利用し、地域全体の課題としても捉えて、もっと使い易い制度にしたい、と絶えず変更しています。その制度変更の主眼は、老いても幸せな想いを抱いて人生を締め括りたい、との願いに応えることであり、次の世代に社会を引継ぐことです。

しかし、その制度変更の主眼とは裏腹に、介護予防とアンチ・エイジングの下で、人生を締め括る場が定まらずに右往左往する高齢者が多数となり、介護現場で介護職が疲弊し、ご家族による高齢者虐待も絶えず起こります。次の世代の人には、子を産まず、生まれた子を育てず、また自殺する人も絶えません。

若い人が生きるにも苦しく、老いて人生を締め括るにも苦しく、幸せが見えない閉塞感の中で、生きることに行き詰った家族の間で、繰り返し悲劇が起こっているように感じます。

その閉塞感を打破し、生きる喜びが見える社会を実現する為には、高齢者介護の現場で老いの幸せを実現することが、最も効果的な解決策ではないか、と強く感じています。

生まれる子供よりも多くのお年寄りが死を迎えている現在、自らの老いを肯定し、死を受容し、幸せな想いの中で人生を締め括るお年寄りが多数となる時、死後にもその命を感じ取って、自らの障害や死を受容する心を育む人が多数となり、老いても、障害をもっても、生きる喜びが見える社会が実現するように想い、その実現を心から願っています。

介護職には老いの幸せを実現する為の大きな役割がある事を自覚し、見送ったお年寄りの命を感じ取る心を育む介護現場を創りあげたい、と心から祈念いたします。

せいりょう園 渋谷 哲

講師 浄土宗法音寺 藤井 明信住職

今月の仏教講話は尾上町養田、浄土宗西山(せいざん)禅林寺派、法音寺、藤井明信ご住職に来て頂いた。冒頭、ご宗派について少し話される。浄土宗は知恩院を総本山とする『鎮西派』と京都永観堂 禅林寺を総本山とする『西山禅林寺派』がある。但し西山派のお寺さんの数とすれば全国に1,000ヶ寺程度でそんなに多い方では無い。因みにお寺の数は全国に約80,000ヶ寺あり、その内最大は浄土真宗派で、約25,000ヶ寺のお寺があるらしい。永観堂と言えば紅葉の名所として有名で、自分も何度か訪れた。昨秋も京都の知人が行う催しに顔を出した時、早めに出かけて紅葉をゆっくり鑑賞させて頂いた。

講話は今年の猛暑の話から始まる。なんでも119年ぶりの酷暑であつたらしい。植物にも変化が表れ、珍しく花をつけたものもあつたと聞く。ある新聞には『残暑』を『惨暑』と、評したり、『西日の鬼瓦』と表現した新聞もあつたとか。しかし『惨暑』、『酷暑』で、あぶり出された悲劇もあつた。クーラーも無く、熱中症で孤独死した老人。行方不明の超高齢者が全国あちこちで続出。海外ではアルコールを飲んで川に飛び込み、溺死する者までいた。お彼岸が過ぎ、少し涼しくなってきたかなと思つたら、一気に寒くなり、ご住職曰く「タオルケットの季節が無くて、いきなり布団が恋しくなりました。」

永観堂禅林寺の本尊像「阿弥陀如来立像(みかえり阿弥陀)」の伝承について話される。『永保2年(1082)2月15日のまだ夜も明けやらぬ頃である。おりしも釈迦涅槃(ねはん)の日、禅林寺中興の祖永観は、本尊阿弥陀如来像を安置する須弥壇(しゅみだん:本堂正面の仏像を安置する壇)の周りで、一人日課の念仏行道(ぎょうどう:修行)をしていた。ふと気が付くと、いつの間にか本尊の阿弥陀如来像が須弥壇から降り、永観の先に立って念仏行道を始められた。あまりのありがたさに、永観は堂の隅に立ち止り、感涙してしまった。永観が歩みをとめたのに気が付くと、阿弥陀如来像は左に振り返り「永観おそし」と言葉を発表された。末代の衆生済度(しゅじょうさいど:人々を救って悟りを得させること)の証拠に、このお姿を永くとどめたまえと永観が祈ると、阿弥陀如来像は振り返った姿のままになったと云う。』

このことは『自分よりおくれる者たちを待つ姿勢。自分自身の位置をかえりみる姿勢。愛や情けをかける姿勢。思いやり深く周囲をみつめる姿勢。衆生(しゅじょう:生きとし生けるもの)とともに正しく前へ進むためのリーダーのふりむき。真正面からおびたしい人々の心を濃く受け止めても、なお正面にまわれない人々のことを案じて、横をみかえらずにはいられない阿弥陀仏のみ心。『お慈悲の心を持っていつも自らを振り返りなさい』と言うことらしい。

浄土宗の宗祖、法然上人の教えから:

「生ければ念仏の功 積もり、死なば浄土にまいりなん、とてもかくてもこの身には、思い煩(わづろ)う事ぞなき と思ひぬれば、死生ともに患(わづら)いなし。死を迎えたならば、生きている時に積んだお念仏の功德によって西方極楽浄土に往生させて頂く。そこには今は亡き人と再会する楽しみもある。いろんな苦しみがあつても、それらをしっかりと受け止めて、人生をまっとうして、安らぎの人生を送りましょう。

そして、『ありがとう』を「口に」、「心に」、「行いに」しっかり表現していきましょう、の一文で講話を終えられた。有難うございました。

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「感染症について」 10月22日(金)

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

風邪が流行る季節となりました。皆さんは風邪などひかれていませんか。

去年は新型インフルエンザが猛威を振るった年になりました。それ以前は、ノロウイルスが流行った年もありました。今年はいったいどういう年になるのでしょうか。

調べたところ、実はすでにインフルエンザに罹っている方がいらっしゃる、学級閉鎖をしているところも存在しているそうです。身近な問題ではないうちは、どこか人ごとのように感じてしまい、私も手洗いうがいを怠ってしまうこともしばしばありますが、感染者は一年を通して存在するようです。

今回の語ろう会では、感染症について皆さんと考えていきたいと思えます。

インフルエンザとノロウイルスの予防について

○インフルエンザの予防

予防においては、有症状患者のマスク着用が有用であり、飛沫感染防止に特に効果的であるが、完全に防げない場合もある。マスクのみでは空気感染や接触感染を防ぐことができないため、手洗い・うがいなどの対策も必要です。免疫力の低下は感染しやすい状態を作るため、偏らない十分な栄養や睡眠休息を十分とることが大事です。これは風邪やほかのウイルス感染に関してもいえることだと思います。

○ノロウイルスの予防

特に調理者が十分に手洗いすること、そして調理器具を衛生的に保つことが重要である。ノロウイルスは、手洗いによって物理的に洗い流すことが感染予防につながります。また、ノロウイルスは85℃以上1分間以上の加熱によって感染性を失うため、特にカキなどの食品は中心部まで充分加熱することが食中毒予防に重要です。生のカキを扱った包丁やまな板、食器などを、そのまま生野菜など生食するものに用いないよう、調理器具をよく洗浄・塩素系漂白剤による消毒をすることも大事です。

手洗いチェッカーでチェックしてみよう



インフルエンザ、ノロウイルス共に手洗いうがいなどの基本的な予防が大事だということが理解できました。では、皆さんに基本的なことが出来ているかどうか、洗い残しがひと目で分かる手洗いチェッカーでチェックしていただきました。

※手洗いチェッカーとは

ブラックライトに反応する特殊な液体を手塗ってもらった後、手を洗ってもらい、洗い残しがあれば白く反応するというものです。自分ではしっかり手洗い出来ている

と思っている人でも実際には洗い残しがあることが分かります。

グループワーク

○普段、皆さんがしている予防策は何ですか？

- ・手洗いうがいだけでなく、普段の健康管理が大事。メリハリのある生活をして免疫力を高めることのできる生活をこころがけることが大事だと思います。
- ・普通のうがいではなく、塩水を鼻から吸い、口から出す「鼻うがい」をしている。
- ・カテキンに殺菌効果があると聞いたので日本茶でうがいをしています。

○去年の新型インフルエンザについて

- ・流行した時には一生懸命手洗いうがいをするけど、治まってしまうと気をつけなくなる。
- ・インフルエンザで介護サービスの利用が停止になってしまうと家族の立場では困る。
- ・テレビの報道は不安を煽っているのではないか、と思うことがある。
- ・過剰な報道により感染者を犯人扱いしているような感じがした。

感想

去年、新型インフルエンザの日本で初めの発症が兵庫県でした。テレビの報道でも過剰に取り上げられ、街中ではマスクを着用している人がたくさんいらっしゃいました。その際に、通所系の在宅サービスの利用は見合わせるように県から通達がありましたが、実際には、感染力は強かったものの症状は軽度で高齢者の感染者も少ない状況でした。

介護保険のサービスは本人の「生活」を支えるので、状況や環境に合わせて臨機応変に対応すべきだと思います。利用する側とサービスを提供する側が、互いに話し合い、本人の望む生活を一緒に考えていくことが大事なのだと思います。

ウイルスは私たちの生活の中にあります、とは言ってもインフルエンザに関しては、様々な生き物を介して感染することによる変異ウイルスなので、今後さらに感染力の強い毒性のあるウイルスになるかもしれません。決して軽んじてはいけません。特に老人ホームなどの入所施設では、ウイルスは外から入ってくる以外に考えられない訳で、まずは職員一人一人が最低限の予防である手洗いうがいを心がけるようにしたいところです。

次回の介護について語ろう会は？

- | | |
|--------|-----------------|
| 11月26日 | テーマ「利用者の外出について」 |
| 12月17日 | テーマ「せりりょう園のくらし」 |

せりりょう園待機者状況

＜平成22年 11月10日現在＞

○入所判定済み者 383名

グループの内訳

Iグループ…133名／IIグループ…150名／IIIグループ…94名

○入所判定済み者の現在状況

在宅150名／特別養護老人ホーム入所中9名／医療機関入院中111名

老人保健施設入所中86名／ケアハウス入居中5名／グループホーム入居中11名／不明5名

辞退その他

せりりょう園入所1名／他施設入所2名／死去3名

第11回地域リハ・ケア海外セミナー2010

“イギリスにおける 地域病院のリハユニット～リハの流れ”

介護職 別府克彦



ビッグ・ベン

私は9月20日～9月27日の8日間、長崎大学医学部の松坂誠應教授と元世界OT協会会長のマーガレット・エリス女子の案内の元、ロンドンを中心にイギリスの福祉の現状や地域リハビリテーションについての視察を行いました。

まずはロンドンの紹介から始めたいと思います。ロンドンには、歴史や伝統を感じさせる建物が多く残っていると同時に首都ということで近代的でもあります。路地を歩いていると突如現れるバッキンガム宮殿やウエストミンスター寺院等の世界遺産の壮大さには言葉を失います。その他にも世界最大規模の大英博

物館・テレビでよく見る時計台ビッグベン・ヨーロッパ最大の観覧車・日本をはるかに越える興奮と感動のオペラ座などなど・言葉には出来ない素晴らしい都市でした。今度は研修ではなくゆっくりと観光したいです。

それではマーガレット女子から受けた講義のイギリスの医療体制の一部について説明します。イギリスには1次医療と2次医療というものがあります。1次医療というのは各地域にあるGP（かかりつけ医・地域ドクター）のことで、そこには内科医・看護師・ケアワーカー・OT・PT・カウンセラー・助産師・薬剤師等の様々な専門職の人達がおられ、その場で対応して簡単な手術も行います。国民の95%が一人一か所、GPに登録し、まずはその病院で診てもらいます。ここでさらに高度な治療が必要と診断された場合に2次医療の総合病院を受診することができます。そしてこれらは完全国営で全国民が無料で受ける事ができます。ただし税金は日本よりも高く消費税だけでも17.5%あります。

メリットとしては、まず無料ということです。そしてGPという馴染みのある病院があることで安心感や信頼関係も築きやすくなります。1次医療と2次医療が段階で分けられる事で、日本のような大型病院への無駄な救急搬送もなくなります。また、GPで患者（イギリスではクライアントと言う）のカンファレンスや面会をし、GPが中心となって医療以外の福祉・社会サービスも決定していくのでGPに患者の全ての情報が集まり各分野との連携が図りやすいとのことでした。

しかしデメリットもあります。登録したGPに行かなければならないので、最初に行く病院を選ぶことができず、セカンドオピニオンも求めにくいそうです。そして無料で誰もが行けることから診察時間が長く、診察に2～3日は待つとのことでした。また、GPの規模は地域によって違いドクターや専門職の方達の数や内容も違ってくるとのことでした。

以上の講義を受け、イギリスの医療・福祉制度が進んでいるとのことで確かに良いなと思う所もあったけど、じゃあ日本でも良い制度かというそれは違うと思いました。例えば、貧富の差が大きいイギリスでは全ての国民が平等に無料で最低限の医療を受ける事ができるこの制度は合っていると思うが、日本のように貧富の差が小さい国ではそうする必要がなく、



テレヘルス(体重の推移)

現在のような一部負担でも自分で好きな病院を選び、合った医療や医者を探す方が良いと思いました。

次はイギリス保健庁にて、イギリスで新しく行われている取り組みについての講義と施設見学についての説明です。

それはWSD（ホール・システム・デモンストレーター）と呼ばれ、増え続ける社会保障費を新しいテクノロジーによってコスト効率を良くしていこうというもので、これにはイギリス政府から300

億ポンド（約4兆円）もの予算がついています。対象者は、慢性疾患をかかえ、治療は出来ないがコントロールは出来る人たちで、そこには高齢者も含まれます。そしてこの取り組みには2つのシステムがあります。

1つは「テレケア」と呼ばれるもので、これは利用者やその家・施設にセンサーを取り付けたり、持ってもらうことで転倒や火災・蛇口の閉め忘れ・尿失禁・朝起きてこない等を、近くに住んでいる家族や管理施設にブザーで知らせ、そういった異常があった時だけ家族や介護士がかけつけるというものです。

もう1つは「テレヘルス」と呼ばれ、これは毎日利用者に必要なバイタル（熱・血圧・血糖値・酸素濃度等）を測ってもらいそれらの情報を管理・モニタリングし、徐々に進む変化を傾向として認識し、糖尿や心不全を早期に発見し対応しようとするものです。

つまり、この2つを組み合わせることで、出来るだけ在宅で暮らせるように、病気を早期発見し、医療費の削減を図り、多くの利用者を少ない人数で見たいというものです。この取り組みをイギリスでは3つの都市で6000人程を対象に、2010年末まで治験を行い、2011年の春には結果が発表され、そしてその結果次第ではイギリスの福祉政策は大きく変わるだろうとのことでした。

この話を聞き見学して関心を持った事は、その規模の大きさです。個人の病院や施設で行うのではなく、地域全てを巻き込んだ政策であるという事にイギリスの医療・福祉に対する姿勢を知りました。ただ、施設や居室の至る所にあるセンサーは暖かみがなく、まるで監視されているようで嫌だなど感じました。しかしこれを利用している方々に話をきくと、「これらがあるから病院や施設に入らず、一人でも家に住めるのよ。」と言われていました。それを聞くと将来、私も同じことを思うかもしれないなど思い考えさせられました。

最後にレジデンシャルホームというところを見学した話をします。イギリス人は貯金をしません。結婚式やお葬式にお金をかけず、若い時から海外旅行に行きます。それには、教育費や医療費がかからないということもあるのですが、高齢者施設に入る時に貯金が2万ポンド（約300万円）以下ならば無料だからです。見学したレジデンシャルホームも月に40万円ほどの利用料がかかるとのことでした。

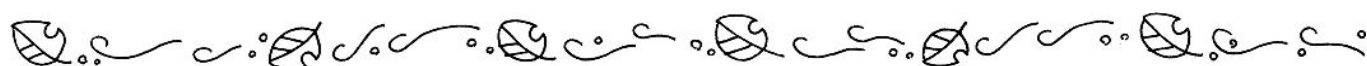
イギリスにはレジデンシャルホームとナーシングホームという高齢者施設があります。ナーシングホームというのは看護師の方が常に在籍する特養のような所で、レジデンシャルホームはグループホームのようなところでは、広々としたスペースに本



レジデンシャルホーム

棚や大型テレビ、テーブルを囲むソファー等、ユニットのような穏やかな空間があり、ここに私達が見学に入ると、多くのお年寄りがいらっしやいました。笑顔で話しかけてくる方、人形を抱き後ろを付いてくるだけの方、30人もの見学者がいるのに振り向きもせず外を眺めている方、それぞれがマイペースに生活しておられ、せいりょう園を思い出しました。そして日本とイギリス、文化は違っても同じ人間であり、老いがある。そこに違いはないのだなど実感しました。この施設で1つ面白いなと思ったことは、各居室のドアにそのお年寄りの写真と自己紹介や好きなものの写真がはってあり興味を持ちました。

今回、この海外研修に行かせてもらい素直に良かったと思っています。今までと全く違った知識や価値観を聞き見学し良い経験になったと同時に、今までにない程のやる気が湧きました。しかしそれらをどう活かしていくかは自分次第だと思います。これからも一生懸命頑張りたいです。



せいりょう園 毎週の行事

- | | |
|---------|----------------|
| 月曜日 | のびのびルーム (自彊術) |
| 火曜日 | のびのびルーム (映画会) |
| 水曜日 | のびのびルーム (カラオケ) |
| | 音楽療法 |
| | 自彊術療法 |
| 木曜日 | のびのびルーム (自彊術) |
| 金曜日 | ピアノ教室 |
| | 陶芸教室 造形教室 |
| 第2火曜日 | 折り紙教室 |
| 第1・3火曜日 | 書道教室 |
| 第2・4水曜日 | お話グループ・福寿草の会 |

せいりょう園 12月の行事予定

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 12月 4日(土) | 園長との懇談 |
| | ロンドンアンサンブル |
| 12月 6日(月) | 仏教講話 |
| 12月15日(水) | 昼食会 |
| 12月17日(金) | 介護についてみんなで語ろう会
～せいりょう園のくらし～ |
| 12月18日(土) | クリスマスコンサート |
| 12月20日(月) | 共生の会 |
| | 美容の日(従来型) |
| 12月22日(水) | 美容の日(ユニット型) |
| 12月24日(金) | クリスマス会 |
| 12月27日(月) | 理容の日 |

ケアハウス等空き情報 <平成22年 11月15日現在>

<<ケアハウス>>

- | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|
| ・ 恵泉 | : 1人部屋若干 | ・ 第二ケアハウス恵泉 | : 若干 |
| | : 2人部屋若干 | ・ 刃が 御津 | : 1人部屋1室 |
| ・ サンライフ御立 | : 2人部屋1室 | ・ あさなぎ | : 2人部屋1室 |
| ・ ケアハウスアリア | : 1人部屋8室 | ・ 青山苑 | : 2人部屋2室 |
| | : 2人部屋2室 | ・ 志深の苑 | : 1人部屋1室 |

[問合せ先]せいりょう園介護相談室 TEL(079)421-7156/(079)424-3433